

GPS/JIPS 安全性要約書

デカノール

物質名 (SUBSTANCE NAME)

イソデカノール (Isodecyl alcohol, CAS No. 25339-17-7)

物質の概要 (GENERAL STATEMENT)

イソデカノールは、無色透明の液体です。主に工業用途として、可塑剤(DIDP、DIDA)の原料アルコールや、界面活性剤、添加剤などの原料に幅広く用いられています。

主に事業所内で使用されるため、ばく露は比較的限られています。製造時や使用等では適切な保護マスク、保護手袋の着用が推奨されます。また、環境への負荷を最小化するために漏洩防止策を講じるとともに、定期的な監視や設備の保守点検が推奨されます。

化学的特性 (CHEMICAL IDENTITY)

項目	内容
一般名	イソデカノール
商品名	デカノール
化学名	イソデカノール
CAS番号	25339-17-7
その他の番号	官報公示整理番号(化審法, 安衛法) (2)-217 EC番号 246-869-1
分子式	$C_{10}H_{22}O$
構造式	iso - $C_{10}H_{21} - OH$
その他の情報	特になし

使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

当社製品の主な用途	主に工業用途として、可塑剤(DIDP、DIDA)の原料アルコールや、界面活性剤、添加剤などの原料に幅広く用いられています。
-----------	---

物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

項目	内容
外観(物理的状态)	液体
色	無色透明
臭気	特有な臭い
密度/比重	0.839 (20/20°C)
融点/沸点	< -30°C

可燃性/引火性	区分外 ² (GHS分類 ¹)
引火点	103.5 °C(開放式)
爆発上下限界	データ無し
自己発火温度	277 °C
蒸気圧	13.3 kPa (150°C)
分子量	158.3
水溶解性	< 0.01 g/100g (20°C)
オクタノール-水分配係数	logPow = 3.94 (実測値)
備考	<p>^{*1} GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals。世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム。</p> <p>^{*2} 区分外: 分類を行うのに十分な情報が得られているが、GHS規定の最も低い危険有害性区分より更に低い危険有害性と考えられる。</p>

ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

<p>ヒトの口に入ったり、皮膚に接触したときの急性の毒性は強くないことが知られています(GHS 分類^{*1}で「区分外」^{*2})。また生殖能または胎児への悪影響のおそれやその疑いはないことが知られていません(GHS 分類^{*1}で「区分外」^{*2})。皮膚に接触すると中程度の刺激があり、眼には強い刺激があります(それぞれ GHS 分類^{*1}で「区分 2」、「区分 2A」)。またばく露によって呼吸器への刺激をもたらすおそれや、眠気またはめまいをもたらすおそれがあります。蒸気やミストを吸い込んだときの急性の毒性や、呼吸器や皮膚への感作性(アレルギー性)、発がん性、長期にわたるまたは反復ばく露による臓器の障害についての十分な情報はありません(GHS 分類^{*1}で「分類できない」^{*3})。</p>	
備考	<p>^{*1} GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals。世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム。</p> <p>^{*2} 区分外: 分類を行うのに十分な情報が得られているが、GHS規定の最も低い危険有害性区分より更に低い危険有害性と考えられる。</p> <p>^{*3} 分類できない: 信頼性あるデータがない、またはデータ不足のため分類できない。</p>

環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

<p>短期または長期継続的な影響により水生生物に毒性があります(GHS 分類^{*1}で「区分 2」)。</p>	
備考	<p>^{*1} GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals。世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム。</p>
環境運命・動態	結果
生分解性	分解しにくい(難分解性)。
生物蓄積性	データはありません。logPowが3.94であることから、中程度の蓄積性があると推定されます。
PBT/vPvBの結論	PBT*、vPvB**に該当する物質ではありません。
備考	<p>*PBT: Persistent, bioaccumulative and toxic(環境中に残留性し、高い生物蓄積性と強い毒性を有する)</p> <p>**vPvB: very Persistent and very Bioaccumulative(環境中に非常に残留性しやすく、非常に高い生物蓄積性を有する)</p>

ばく露 (EXPOSURE)

作業者および消費者、環境へのばく露は、以下の取扱い時におこる可能性があります。

詳細	No.	当社製品の主な用途におけるばく露の可能性(ばく露経路など)
作業者ばく露	1-1	管理されたばく露のある閉鎖系・連続プロセスでの作業あるいは閉鎖系バッチでの合成あるいは調合作業において、メンテナンス、サンプリングおよび装置故障の際等に、作業者への経皮・吸入ばく露の可能性がります。専用設備での船舶／大容量コンテナへのまたは船舶／大容量コンテナからの物質や調剤の移し替え作業において、作業者に対して経皮・吸入のばく露の可能性がります。
消費者ばく露	2-1	本物質を含む消費者製品はなく、消費者へのばく露の可能性はありません。
環境ばく露	3-1	産業における本物質の製造工程および他の物質の合成反応の工程において、主に大気及び水環境へ放出される可能性がります。放出後は大気および水中で希釈され、人や環境に悪影響を及ぼさない濃度レベルになると考えられます。
注意事項		他の用途におけるばく露の可能性がある場合、推奨するリスク管理措置を参考に適切な措置を実施してください。

推奨するリスク管理措置 (RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS)

詳細	No.	当社リスク評価結果に基づく推奨する管理措置
対作業者ばく露	1-1	製造や使用時の作業の際は、適切な保護めがね、保護マスク、保護手袋を着用してください。屋内では局所排気や良好な換気の下、作業してください。 作業責任者は、作業者に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法などの教育をしてください。
対消費者ばく露	2-1	本物質を含む消費者製品はなく、ばく露の可能性はありません。
対環境ばく露	3-1	本物質は大気及び水環境へ放出される可能性がります。排ガス・排水処理施設を設置し、漏洩防止などの対策を講じるとともに、日常管理、取り扱いに注意を払ってください。
その他取扱注意事項		高温物、スパーク、火炎を避け、強酸化剤との接触を避けてください。
注意事項		「デカノール」を直接、取り扱う場合には、KHネオケム(株)のMSDSを入手・参照の上、取り扱いに十分、注意してください。

(注) No.は「ばく露」記載箇所にある、それぞれの「ばく露の可能性」に対する管理措置を記載していません。

政府機関のレビュー状況 (STATE AGENCY REVIEW)

有害性評価	レビュー状況
SIDS Initial Assessment Profile, Oxo Alcohols C9 to C13, SIAM 22, 18-21 April 2006.	http://webnet.oecd.org/hpv/ui/handler.axd?id=bda6390a-7a17-4130-8774-7fb3a6509b89

法規制情報／分類・ラベル情報

(REGULATORY INFORMATION / CLASSIFICATION AND LABELLING INFORMATION)

法規制情報

法律	規制状況
労働安全衛生法	該当しない
消防法	法第2条危険物 第4類引火性液体 第3石油類非水溶性液体
化学物質排出把握管理促進法	法第2条第2項 施行令第1条別表第1 第1種指定化学物質(アルカノール(炭素数が10のものに限る。))
毒物及び劇物取締法	該当しない
船舶安全法	危規則第2、3条 危険物告示別表第1 有害性物質(3082:環境有害物質(液体)、P.G. III) 危険則第2、3条 危険物告示別表第8の3 液体化学薬品(デカノール、船型:2)
海洋汚染防止法	施行規則第30条の2の3 海洋汚染物質 施行令別表第1 有害液体物質(Y類物質、280:デシルアルコール)
航空法	施行規則第194条 危険物告示別表第1 その他の有害物件
港則法	該当しない
大気汚染防止法	該当しない
国連分類	9
国連番号	UN 3082

GHS 分類情報^{*1}

ハザード項目	分類結果(危険有害性情報)
引火性液体	区分外 ^{*2}
自然発火性液体	区分外 ^{*2}
自己発熱性化学品	分類できない ^{*3}
金属腐食性物質	分類できない ^{*3}
急性毒性(経口)	区分外 ^{*2}
急性毒性(吸入)	気体:分類対象外、蒸気:分類できない ^{*3} 、粉塵・ミスト:分類できない ^{*3}
急性毒性(経皮)	区分外 ^{*2}
皮膚腐食性/刺激性	区分2(皮膚刺激)
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	区分2A(強い眼刺激)
呼吸器感作性	分類できない ^{*3}
皮膚感作性	分類できない ^{*3}
生殖細胞変異原性	分類できない ^{*3}
発がん性	分類できない ^{*3}
生殖毒性	区分外 ^{*2}
特定標的臓器(単回ばく露)	区分3(気道刺激性)(呼吸器への刺激のおそれ) 区分3(麻醉性)(眠気またはめまいのおそれ)
特定標的臓器(反復ばく露)	分類できない ^{*3}
吸引性呼吸器有害性	分類できない ^{*3}
水生環境有害性(急性)	区分2(水生生物に毒性)
水生環境有害性(慢性)	区分2(長期的影響により水生生物に毒性)
備考	^{*1} GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals。世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム。 ^{*2} 区分外: 分類を行うのに十分な情報が得られているが、GHS規定の最も低い危

	<p>除有害性区分より更に低い危険有害性と考えられる。 *3 分類できない: 信頼性あるデータがない、またはデータ不足のため分類できない。</p>
--	---

ラベル情報

絵表示またはシンボル	
注意喚起語	警告
危険有害性情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 皮膚刺激 ・ 強い眼刺激 ・ 呼吸器への刺激のおそれ ・ 眠気またはめまいのおそれ ・ 水生生物に毒性 ・ 長期的影響により水生生物に毒性

出典 (REFERENCES)

<p>KHネオケム株式会社(2012)デカノール(イソデカノール)のGPS/JIPS 対応リスク評価 (独)製品評価技術基盤機構(NITE)化学物質総合情報提供システム Chemical Risk Information Platform (CHRIP), http://www.safe.nite.go.jp/japan/sougou/view/ComprehensiveInfoDisplay_jp.face</p>
--

連絡先 (CONTACT INFORMATION WITHIN COMPANY)

会社名	KHネオケム株式会社
住所	〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-3-1
担当部門	環境保安・品質保証部
電話番号/FAX番号	03-3510-3574/03-3510-3571

発行・改訂日 (DATE OF ISSUE / REVISION) その他の情報 (ADDITIONAL INFORMATION)

初版: 2013年7月18日発行

改訂:

改訂日	項目	改訂箇所	版
2024年2月14日	法規制情報、連絡先	法規制情報の化管法の政令名称、および連絡先の住所を変更した	1.0

特記事項:
なし

その他の情報 (ADDITIONAL INFORMATION)

GHS 分類やその他の安全性に関連する言葉の定義・解説

用語	定義・解説
引火性液体*	引火点が 93°C以下の液体のこと。

自然発火性液体*	少量であっても、空気との接触後 5 分以内に発火する液体のこと。
自己発熱性化学品*	自然発火性液体または自然発火性固体以外の固体物質または混合物で、空気との接触によりエネルギー供給がなくとも、自己発熱しやすいものこと。
金属腐食性物質*	化学反応によって金属を著しく損傷し、または破壊する物質または混合物のこと。
皮膚腐食性*	試験物質の 4 時間以内の適用で、皮膚に対して不可逆的な損傷が発生すること。
皮膚刺激性*	試験物質の 4 時間以内の適用で、皮膚に対する可逆的な損傷が発生すること。
眼に対する重篤な損傷性*	眼の前表面に対する試験物質の投与にともなう眼の組織損傷の発生、または視力の重篤な低下で、投与から 21 日以内に完全に回復しないもの。
眼刺激性*	眼の表面に試験物質をばく露した後に生じた眼の変化で、ばく露から 21 日以内に完全に回復するもの。
呼吸器感作性*	物質の吸入により気道に過敏反応を誘発すること。
皮膚感作性*	皮膚への接触によりアレルギー反応を誘発すること。
生殖細胞変異原性*	ヒト生殖細胞に経世代突然変異を誘発すること。
発がん性*	がんを誘発し、またはその発生頻度を増大させること。
生殖毒性*	性機能および生殖能あるいは発生に悪影響を及ぼすこと。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)*	単回ばく露で起こる特異的な非致死性の特定標的臓器毒性を生ずること。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)*	反復ばく露によって起こる特異的な非致死性の特定標的臓器毒性を生ずること。
吸引性呼吸器有害性*	誤嚥後に化学肺炎、種々の程度の肺損傷を引き起こす、あるいは死亡のような重篤な急性の作用を引き起こすこと。
水生環境有害性(急性)*	物質への短期的な水生ばく露において、生物に対して有害であること。
水生環境有害性(慢性)*	物質への長期間の水生ばく露において、生物に対して有害であること。
注意喚起語*	ラベル上で危険有害性の重大さの相対レベルを示し、利用者に潜在的な危険有害性を警告するために用いられる言葉のこと。GHSでは、「危険 (Danger)」や「警告 (Warning)」を注意喚起語として用いる。
生分解性	環境における物質の生物学的分解性
生物蓄積性	環境における物質の生物体内への蓄積性
出典	*国際連合(2011)化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS)改訂4版 経済産業省仮訳

免責条項 (DISCLAIMER)

このGPS/JIPS安全性要約書の目的は、対象品の情報を簡単な概要として提供することであり、リスク評価のプロセス及びヒト健康や環境への影響などの専門的な情報を提供するものではありません。また、安全性データシート(SDS)、または各種のリスク評価に代わる文書として作成されたものではありません。また、記載内容は現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、いかなる保証をなすものではありません。